

長与の歴史(年表)

西暦	年号年	摘 要	西暦	年号年	摘 要
七九	貞観二年	神后皇后長崎を通り時津より三韓征伐のため乗船されたと伝えられる。	一四七七	文明九年	大炊守家清純伊の身代わりとなる。
八七〇	貞観十二年	このころ諫早、大村地方に条里制はじまる。	一四八〇	文明十二年	大村純伊有馬を破り大村家を再興する。郷土舞踊はじまる。
九九四	正暦五年	大村直純、伊予大州より大村久原城に入る。	一四九三	明応二年	長与村は明応の頃から大村の領地であったか不詳。
一一一五	建保三年	大村幸澄、頼朝に仕えて京都大番役を勤める。	一五〇六	永正三年	国司一七代大村純前
一二七四	文永二年	大村氏祖、親澄ら両役に出陣して功があつた。	一五三三	天文二年	地頭四代駿河守純家
一二八一	弘平四年				中尾の古城蹟、天文の頃長与権之助これを築くとある。
一三三三	元弘三年	大村澄遠、澄興ら千綿山に尊良親王を奉ずる。	一五四一	天文一〇年	国司一八代大村純忠
一三三六	延元元年	大村氏菊池氏を助けて福岡多々良浜に尊氏と戦う。	一五五七	永禄元年	地頭四代権平純平
一三五九	正平一四年	大村氏菊池武光氏を助けて筑後川に出陣、少弐頼尚を破る。	一五五九	永禄三年	長与石見、波佐見で後藤貴明の軍と戦う。
一三六三	建徳二年	一撲連判状に長与姓が見える。	一五七二	元龜三年	松浦竜造寺西郷勢大村領を侵し大村氏困窮する。
一三九一	元中八年	古寺屋敷蹟岡郷にあり、柴山の内に五輪の塔らしい石一段がある。	一五七三	天正元年	地頭五代長与太郎左エ門純一
一三九四	応永元年	嬉里の古館蹟、温石に近江権守と記した塔がある。	一五七四	天正二年	この頃長崎付近の寺院キリスト教徒に焼かれる。
一四四一	嘉吉元年	国司一五代大村純治、地頭二代駿河守家益。	一五七六	天正四年	大村領内の仏寺ほとんど焼き払われる。
一四五七	長禄元年	国司一六代大村純伊、地頭三代大炊守家清。	一五七九	天正七年	大村氏ようやく勢力挽回し早岐等を攻める。
一四七四	文明六年	南高有馬氏大村氏を破り大村領ことごとく併呑される。(有馬肥前守貴純大軍をひきいて郡村今富城を攻める。この時旗本の士大村山城朝長右エ門、長与大炊守ら力戦して純伊公を救出する)	一五八二	天正一〇年	ローマ派遣使節四少年長崎を出発する。
			一五八六	天正一四年	地頭長与太郎左衛門純一、大村純忠公に抗する。浜の城にたてこもる。純忠公兵を遣わして攻める。ついに陥り純一深堀に走る。浜の城は長与権之助築城とある。法妙寺の後、睡飲山の頂上にあり後、睡飲の古蹟という。
			一五九二	文禄元年	大村氏、有馬氏朝鮮出兵
					長与軍助、長井と改、食禄三拾石、丸田在

一五九六	慶長元年	東彼波佐見に陶業がおこる。慶長年間筑前めいの浦人助右衛門が来て塩浜を開く。後、田地となる。大村氏仏教に改宗する。二六聖人長崎で殉教する。長与軍助、食禄三八町八反一〇歩、一三〇石七斗九升	一六二四	寛永元年	翌九月一〇日長崎の大殉教が行われる。九月一三日長与のキリスト教徒五名、馬の供給を拒んだかどによって処刑される。その他長与地方において迫害が多かった。
一五九七	慶長二年	長与十郎左衛門、長与より食禄五町一反四畝、三九石四斗五升四合			長与の住人トマスナカンガワ（中川）、ヨゼフゴンサロ（五三郎？）の二人は神父たちが長与を訪問した際、歓待したことを理由に七月一〇日モスママ（松山）で斬首される。
一五九九	慶長四年	検地、一二二九石一升四合一勺二二分			長崎で踏絵はじまる。
一六一二	慶長一七年	背教者である長与奉行（朝長四郎兵衛？）は大村で布教していた、サンフランシスコ会の神父プライペトロ、ラスンプション神父を四月八日諫早領喜々津で逮捕させた。	一六二六	寛永三年	大村丹後守純信、長林山法妙寺を建立させる。
一六一七	元和三年	五月二二日に処刑されたラスンプション神父に刺戟されてアランソ、ナパレテ神父とフライエルナント、サンヨゼフ神父は大村で布教するために長崎を出発し長与の波止場で人々に説教し領主に書翰をしたためたが二六日夜長与において大村の役人に逮捕され六月一日処刑された。	一六二七	寛永四年	長与肝煎、平左衛門、善兵衛、寛永一六年頃庄屋寛永年間、寛永検地
		四月二五日オルファネル神父は従僕らと矢上で逮捕され長与に連行されて鈴田にむかった。	一六二八	寛永五年	九月岩淵神社建立
		聖ドミニコ会のヨゼフデサンイヤシント神父は八月一九日大村の牢舎から海路長与に向かった。	一六三六	寛永一三年	横田、給人への法、農民への定
		長与の住人ミカエルキロク（喜六）は十月七日大村の近くの大曲で虐殺された。	一六四二	寛永一九年	白髭神社建立
		オルファネル神父、イヤシント神父ら囚徒二五名は九月九日大村から長与に至り浦上に向かった。	一六四六	正保三年	百姓中心得の趣、発布
一六二二	元和八年		一六六四	寛文四年	浅井角左衛門、尾道吉右衛門、山田源右衛門、尾道長左衛門、皿山おこす。
			一六六七	寛文七年	浦浜崎塩浜を作る。
			一六七六	延宝四年	郡代法令、発布
			一六七七	延宝五年	戸町村の人この村に来て瓦焼きをはじめめる。
			一六八二	天和二年	三根郡字薬師谷に木像の薬師を彫刻し安置する。戸隠神社建立
			一六八五	貞享二年	諸村制法、発布
			一六八六	貞享三年	解屋古塩浜を作る。またこの貞享年間に浜崎古塩浜も作らせる。

一六八八	元禄元年	天満宮(東)建立	一八四八	嘉永元年	えて黑白の茶出、皿、茶碗、・植木鉢などを焼く。 三根郷に薬師如来鳥居建立(現在戸隠神社)との 頃
一六九八	元禄二年	中屋の焼物土掘取ることを佐賀領の人に免許す る。	一八四八	嘉永元年	三根郷に薬師如来鳥居建立(現在戸隠神社)との 頃
一七一二	正徳二年	波佐見から太郎兵衛という者来て皿山で陶器を焼 く。	一八六六	慶応二年	三根郷字藤の棟新堤を築造する。
一七二九	享保一四年	解屋古塩浜を再び作る。	一八六七	慶応三年	八月七葉迫の大堤成就す。出夫二九、五三一人。
一七三〇	享保一五年	作奉行勤方、心得発布			大村氏鳥羽伏見、長崎振遠隊奥羽に官軍として奮戦 する。
一七三二	享保一七年	大凶作			
一七八二	文明二年	加勢穀、貢租	一八七一	明治四年	江戸幕府倒れ、大政奉還。 廃藩置県(なおまだ村の政治は旧藩の庄屋にさせ た)。
一七五九	宝暦九年	松浦、大村両家の領土協定が成る。			この際高田村を廃し長与村に合併。高田郷となり同 時に本川内、平木場、三根、吉無田、丸田、嬉里、 斉藤、浦、岡で一〇郷となる。
一七九二	寛政四年	当村市次郎へ畑二反を与え皿山に陶器を焼かせ、 これを多尾焼と称する。			七月大村県がおかれ、純照知事となったが一〇月長 崎県に併合される。
一八〇〇	寛政二年	千代附知行を引き上げ庄屋名となる。			学制頒布される。
一八一四	文化二年	他国商品排除の令発布			地租改正、キリスト教解禁される。
一八一七	文化一四年	貢租改正、三斗俵を三斗一升俵に改める。	一八七二	明治五年	本村法妙寺を仮校舎として教授開始。
一八一八	文政元年	頼山陽長崎に来る。	一八七三	明治六年	旧藩庄屋の趾を校地及び校舎にあて長与小学校創 立、第五学区第一中学区長崎県管下肥前国彼杵郡
一八二〇	文政三年	皿山陶器中止となる。			長与村長与小学校と称する。教師は川添寸平(後に 里村寸平)児童数一〇名。第一五区として浦上村に
一八二一	文政四年	文政の大地震がある。	一八七四	明治七年	戸長をおきこれを統轄させた。数か村連合して戸長 一人をおき各村に副戸長をおいたようである。これ を期して庄屋の名称を廃して村の政治をさせた。
一八二二	文政五年	長与浦解屋新塩浜普請はじまり同七年に成就。			
一八二三	文政六年	シーボルト長崎で鳴滝学舎をひらく。			
一八二七	文政一〇年	長与浦浜崎新塩浜普請はじまり同一一年に成就。			
一八三三	天保四年	白髭神社建立。			
一八三六	天保七年	早魃のため大飢饉、肥前地方大いに飢える。			
一八四一	天保二年	天保改革はじまる。			
一八四六	弘化三年	渡辺作兵衛皿山を再興し小釜三軒を仕立て往年取 つて来た中尾から土を取り皿山付近の瓦土をまじ			

一八七五	明治八年	洗切継場の建物を校舎として洗切分校と称する。本川内、平木場、三根の三郷の児童を通学させた。地租改正、実施測量をし、図面を作製し地価を定めその一〇〇分の三を地租として徴収した。数年後長与村を南部北部の二つに分け北部副戸長川添又右衛門、南部副戸長波多善次郎、各郷には組頭、付属員、区長など（時によっては名称は変わる）郷内住民に伝達する機関があった。教育令制定学校教育に洋学を採用する。	一八九二	明治二五年	悪性の赤痢病発生して全村にひろがり猖獗を極め死者三〇〇を出す。堂崎官林の払下げを乞い学校改築をする。村長川添又右衛門時代に村有小作米公平でないとして再検討し数十俵を増収した。堂崎官林払下げの松一本を製材して役場前の架橋をする（現在コンクリート橋）。これをはじめとして村内のおもな橋の架設漸次すすむ。
一八七六	明治九年	数年後長与村を南部北部の二つに分け北部副戸長川添又右衛門、南部副戸長波多善次郎、各郷には組頭、付属員、区長など（時によっては名称は変わる）郷内住民に伝達する機関があった。教育令制定学校教育に洋学を採用する。	一八九四	明治二七年	この頃伊木力村より浦上山里村まで四力村連合の車道をつくる。
一八七九	明治一二年	教育令制定学校教育に洋学を採用する。	一八九六	明治二九年	第二代波多善次郎村長就任
一八八〇	明治一三年	南部北部合併し戸長一人をおく（川添又右衛門）。ここにはじめて村の独立が認められた。	一八九七	明治三〇年	明治二七年から鉄道工事始まり同三〇年浦上、道の尾、長与三駅間を小さな汽車が往復する。
一八八二	明治一五年	学務委員をおく。	一八九八	明治三二年	松の頭トンネル工事竣工し大村より長崎に至る鉄道全部開通する。
一八八六	明治一九年	地租改正これより二、三年かかって山林原野の開墾、田畑の変換を明らかにして徴収した。このころ舟津より高田までの車道を改修する。	一九〇七	明治四〇年	岡分教場をおく。
一八八八	明治二二年	市町村制公布	一九〇九	明治三二年	第三代広瀬直市村長就任
一八八九	明治二二年	村長村会議員を選出。村長川添又右衛門、村会議員一八名、一級より九名、二級より九名、（但し、これより数年前より村会議員の設置があつて議員中の老練家をもつて議長とし村の政治を議せしめたという）。	一九一〇	明治四三年	帝国在郷軍人会を組織する。分会長広瀬伝市、会員約三〇〇名
			一九一五	大正四年	長与村青年会を組織する。
			一九一六	大正五年	原野騒動おこる。これより数年を経て解決する。
			一九一九	大正八年	農業補習学校を創立。第四代中山長次郎村長就任
			一九二〇	大正九年	高田分教場を設置する。
					第五代広瀬直市村長就任
					長与村青年会は長与青年団と改称する。団員約二四〇名。

一九三三	大正十二年	長与処女団を組織、良妻賢母を養成しようと努めた。 水谷多香樹氏 노력により長与村岡産業組合を組織する。数年後長与産業組合となる。	一九四五	昭和二〇年	農業補習学校を青年学校と改称し義務教育を施すこととなった。(尋常科卒業生は五カ年、高等科卒業生は三カ年) 長崎に原子爆弾おちる。
一九二四	大正一三年	大正一二年十一月十日国民精神作興の御詔書に基づき立正本会を組織した。団員約六〇〇名、数年後女子部を設け女子部会員約九〇〇名であった。嬉里、吉無田、三根、三郷の青年支部は東宮殿下御成婚記念事業として総動員で長与川沿岸道路に桜を植える。(苗木は古賀村から購入)	一九四六	昭和二二年	この頃から産業も漸次発達し貨物運送のため道路を幅二間の車道として改修した。(舟津より長与川に沿って斉藤嬉里を経て高田の中央を通過し長崎から時津に至る県道に出る)
一九二五	大正一四年	普通選挙法公布	一九四七	昭和二二年	教育基本法制定 第一次・第二次農地改革 新憲法発布 自治体発足
一九二六	大正一五年	青年訓練部を設置			第七代村田直輝村長就任
一九二七	昭和二年	処女団を女子青年団と改称、当時約一七〇名			学制改革 第八代吉村勇策村長就任
一九二九	昭和四年	第六代一瀬新作村長就任	一九四八	昭和二三年	長崎西高等学校長与分校開校
一九三〇	昭和五年	消防団を組織する。(団員三五二名)、第一部岡郷、第二部浦郷、第三部高田の一部、第四部吉無田郷、第五部三根郷、第六部平木場郷、第七部本川内郷、社会教育村として指定される。	一九四九	昭和二四年	社会教育法制定
一九三三	昭和八年	経済更生村として指定される。	一九五一	昭和二六年	長与村体育協会設立
一九三四	昭和九年	方面委員会を組織し委員一二名であった。(毎月或いは隔月一回委員会を開催し社会事業につき協議する)	一九五二	昭和二七年	第九代中原計利村長就任
一九三七	昭和二年	その筋の命により消防団を警防団と改称する。(支那事変に当たって消防だけでなく諸種の警備事項増加した)	一九五三	昭和二八年	長与川準用河川認定 長与村教育委員会設置。 台風九号による災害(浦橋流失) 長崎バス長与乗入(二本松まで) 公営住宅を五戸建設
一九三九	昭和一四年				

一九五四	昭和二九年	公営住宅一〇戸建設	一九六九	昭和四四年	町制施行
		第一回村民ソフトボール大会開催			長崎国体（本町は一般女子ソフトボール会場）
一九五六	昭和三一年	第一〇代近藤近村長就任			堂崎遺跡発掘調査はじまる。
		台風一二号による災害(塩床地区護岸に被害)	一九七〇	昭和四五年	高田川二級河川認定
一九五七	昭和三二年	諫早水害			長与町生活学校はじまる
		長与川・大堂川氾濫			長与町史談会発足
一九五八	昭和三三年	役場庁舎落成			長与町婦人会歌発表
一九五九	昭和三四年	長与川改良工事第一期工事着手	一九七一	昭和四六年	長与中学校体育館完成
		台風九号・一二号による琴の尾地区家屋損壊			南田川内川二級河川認定
一九六一	昭和三六年	長与みかん音頭発表			寺尾敷跡五輪塔群県文化財指定
一九六二	昭和三七年	長与小学校コンクリート校舎第一期工事完成	一九七二	昭和四七年	長与町連合青年団を青年協会に改称
		長崎バス本川内線乗入			第一一代吉田安親町長就任
一九六三	昭和三八年	第一回村民体育祭開催			長与川堤防損壊
一九六四	昭和三九年	塩床、伊木力間県道完成			県道舗装一〇〇％完成
一九六五	昭和四〇年	第一回長与村文化祭開催			大堂川砂防ダム着手
		大雨による災害（長与川・高田川・南田川内川に被害）			新皆前橋完成
一九六七	昭和四二年	高田小学校独立校舎建設はじまる。			前田川内洞穴遺跡調査はじまる
		赤痢集団発生患者八五〇名	一九七三	昭和四八年	第一回長与町オリエンティング大会
		大干ばつ			長与町東部土地区画整理事業開始
		長与村国体事務局設置			第二次農業構造改善事業
		村章制定			町道日当野越線改良工事
一九六八	昭和四三年	長与村公民館完成			長与ニュータウン団地において三根郷、吉無田郷の郷区域変更
		西田原団地水害			西彼中央土地開発公社設立
		長与小学校高田分校が高田小学校に独立			高田小学校屋内運動場新設
					長与中学校火災

一九七四	昭和四九年	<p>長与町議会議員の定数を二四名に改定</p> <p>長与町公共下水道事業開始</p> <p>長与中学校用地造成工事</p> <p>長与町役場三階増築工事</p> <p>長与町都市公園設置</p> <p>長与町下水処理場の建設</p> <p>選挙公報（町議会）発行に関する条例制定</p> <p>木場治水ダム建設反対請願不採択</p> <p>長与浦東側公有水面埋立開始</p> <p>高田地区公民館完成</p> <p>高田小学校校舎増築</p> <p>西部土地区画整理事業に伴い嬉里郷字二丁間地区郷</p> <p>区域の変更</p> <p>原爆被爆者援護法の制定促進に関する決議</p> <p>同報無線設置</p> <p>長与町スポーツ振興条例制定</p> <p>高田公民館事務取扱所開始</p> <p>洗切小学校校舎の増改築</p> <p>長与中学校、丸田郷に移転</p> <p>洗切小学校、平木場郷尺郷に移転</p> <p>百合野歩道橋完成</p> <p>第一回長与町社会福祉大会</p> <p>長与町役場庁舎別館増築</p> <p>第一回長与町民俗芸能大会</p>
一九七五	昭和五〇年	
一九七六	昭和五一年	
一九七七	昭和五二年	
一九七八	昭和五三年	<p>高田越橋架替</p> <p>長与東部土地区画整理事業竣工</p> <p>農民健康増進施設上長与体育館完成</p> <p>高田小学校プール完成</p> <p>地籍調査開始</p> <p>長与町ペーロン保存会結成</p> <p>長与町浄化センター建設着工</p> <p>大井手川二級河川認定</p> <p>長与ダム建設はじまる</p> <p>長与中学校体育館完成</p> <p>高田小学校、洗切小学校々々増築</p> <p>県立長崎西高等学校長与分校廃校</p> <p>県立長崎北陽台高等学校開校</p> <p>洗切小学校体育館完成</p> <p>第一回町民ナイターソフト開幕</p> <p>長与町心身障害者（児）療育センター完成</p> <p>第二次長与町総合計画策定</p> <p>上長与地区公民館完成</p> <p>洗切小学校体育館完成</p> <p>長与町立北小学校開校</p> <p>長与町立長与小学校岡分校廃校</p> <p>西高田公営住宅建替事業完成</p> <p>長与町営駐車場完成</p> <p>長与町老人福祉センター完成</p> <p>役場庁舎増築（一階～三階）</p> <p>長与町青空市開設</p>
一九七九	昭和五四年	
一九八〇	昭和五五年	

一九八一	昭和五六年	<p>長与浄水場沈澱池改良事業完成</p> <p>長与小学校運動場にナイター施設完成</p> <p>洗切小学校プール完成</p> <p>長与浄化センター完成</p> <p>長与町立第二中学校開校</p> <p>長与町勤労青少年ホーム完成</p> <p>町道嬉里谷、氷取線が開通</p> <p>県道長崎多良見線と諫早時津線の各一部合わせて二八・七km、多良見町喜々津から大村湾沿いに大草、堂崎、寺の下を経て時津町までの道路が国道（二〇七号）へ昇格（町内八、一七一m）</p> <p>第二中学校、北小学校体育館完成</p> <p>自然薯生産流通施設、農畜産物処理加工施設完成</p> <p>消費生活モニター発足</p> <p>七・二三長崎大水害、長与町で日本観測史上第一位、一時間雨量一八七ミリを記録。死者六人、被害額九〇億円。</p> <p>長与町働く婦人の家完成</p> <p>長与町老人福祉センター丸田荘完成</p> <p>防災（同報）無線五子局増設</p> <p>長与北部地区多目的研修集会施設完成</p> <p>道ノ尾警察官駐在所新築完成</p> <p>高田幹線管渠布設工事（下水道）</p> <p>長与ひまわり日本一、（第三回全国家庭婦人ソフトボール大会）</p> <p>高田川改修と吉無田線街路工事着工</p>
一九八四	昭和五九年	<p>時津警察署長与警察官派出所完成</p> <p>川平有料道路着工</p> <p>長与町公共施設等管理公社を設置</p> <p>農村総合整備モデル事業計画策定（二〇九年計画）</p> <p>高田児童館完成</p> <p>町道百合野線改良工事完成</p> <p>農村総合整備モデル事業着手</p> <p>自動車文庫「ほほえみ号」スタート</p> <p>高田川改修工事・吉無田線街路工事完成</p> <p>第一浄水場生物接触酸化槽完成</p> <p>庁舎建設等調査研究特別委員会設置</p> <p>長与町交通少年団結成</p> <p>三根、一丁田地区ほ場整備着工</p> <p>琴ノ尾岳自然公園整備計画（県）</p> <p>新農業構造改善事業完成</p> <p>移動系防災行政無線設置</p> <p>吉無田郷辻後自治会、自主防災組織結成（第一号）</p> <p>授産施設「長与ひばり園」改築</p> <p>長与総合公園プール完成</p> <p>長与町行政改革推進委員会設置</p> <p>長与港埋立地C工区埠頭用地、一部公道完成</p> <p>長与町行政改革大綱策定</p> <p>長与ダム完成</p>
一九八三	昭和五八年	
一九八二	昭和五七年	
一九八五	昭和六〇年	



一九八六	昭和六二年	第一・四分団消防格納庫完成 「二一世紀ふれあい」「義務教育施設整備」基金設置 長与町ペーロン資料館完成 「長与町総合計画」策定 市立長崎商業高校、長崎市泉町・長与町に移転 琴ノ尾遊歩道中央コース完成 長与町婦人団体連絡協議会設立 長与駅周辺土地区画整理事業現場事務所開設 高田南土地区画整理事業現場事務所開設（県施行） 長与南小学校建設工事着工 ふれあい広場（多目的広場）工事着工 長与総合公園（運動広場）工事着工 町道日当野越線道路改良工事着工 公共下水道事業都市計画区域の市街化区域ほぼ完了、調整・一般区域が処理区域に拡大 長崎バス路線延長（本川内線・木場地区） 高田南土地区画整理事業工事着手 長与町庁舎着工 ふれあい広場（多目的広場）オープン デイ・サービス事業開始 「ふれあい農園」オープン 公営住宅・岡岬団地第一期工事完成 新長与駅前橋完成	一九八八	昭和六三年	長与ひまわり日本一、（第一回全日本ママさんソフトボール大会） 水道第二浄水場工事着工、第五期拡張工事開始 下水処理施設・一系列増設工事着工 長与総合公園（運動広場）オープン 長与南小学校学校給食共同調理場完成 長与南小学校開校 長与町テニス広場オープン 長与町新庁舎完成 オンラインシステム稼働（電算機による事務処理開始） 小規模デイ・サービスセンター完成 長与町図書館開館 長与町健康センター開館 長与町武道館完成 長与町第二浄水場稼働 高田地区ふれあい農園オープン 長与小学校体育館改装 東高田町営住宅建設開始 台風一九号、長崎県を直撃（最大瞬間風速54.3mを記録） 長与川改修工事完了 町民体育館完成 町老人保健福祉計画策定 JR高田駅誕生 「平和で安全な町」宣言
一九八七	昭和六二年		一九八九	平成元年	
			一九九〇	平成二年	
			一九九一	平成三年	
			一九九三	平成五年	
			一九九四	平成六年	

一九九五	平成七年	長崎北陽台高校ラグビー部、全国大会（花園）で準優勝	二〇〇四	平成一六年	百合野地区へバス乗り入れ開始 長与町ふれあいセンター・健康センター完成 長崎北陽台高校女子登山部インターハイ優勝 西彼中部三町合併協議会廃止議案を可決 西彼中部三町合併協議会解散 長与三彩発掘調査で長与三彩出土 高田越トネル開通 第七次総合計画（後期基本計画）策定
一九九六	平成八年	平和祈念碑完成（戦後五〇周年記念事業） 高田中学校開校 第五次総合計画（後期基本計画）策定	二〇〇五	平成一七年	長与町議会議員定数二〇人に削減 複合障害者施設「ほほえみの家」完成 「よみがえる長与三彩展」開催 平和の塔を中尾城公園内に建立 台風一三号長崎県を直撃（町も家屋農作物に大被害） 長与南交流センター完成 介護保健事業が長与町単独スタート 学校施設耐震補強事業実施（長与小学校体育館・高田小学校体育館・長与中学校体育館） 後期高齢者医療制度開始 長与町長選挙（四四年ぶりの町長選挙）町制施行初の選挙戦 長与町海洋スポーツ交流館完成 県立長崎北陽台高等学校創立三〇周年 町民提案事業創設 学校施設耐震補強事業実施（洗切小学校体育館） 町制施行四〇周年 長与南小学校校舎増築工事完成
一九九七	平成九年	長与町陶芸の館完成 ウエザースフィールド町との姉妹都市締結 町民文化ホールオープン	二〇〇六	平成一八年	長与町国際交流協会設立 町制施行三〇周年 長与駅前広場完成 県立長崎シーボルト大学開学（現長崎県立大学シーボルト校） 人口40,000人到達 第一二代 葉山友昭町長就任 「まちづくり百人委員会」設置 老人福祉センター丸田荘オープン ウォーキングセンター潮井崎交流館オープン 第六次総合計画策定 中国上海市ナンフィ区と友好交流調印 長与児童館完成（町内全小学校区設置完了） 西彼中部三町合併協議会発足・加入 長与町特産品直売所「まんてん」オープン 全国高等学校総合体育大会「長崎ゆめ総体」開催（男子ソフトボール競技・ヨット競技） 長崎北陽台高校男子登山部インターハイ優勝
一九九八	平成一〇年	町制施行三〇周年	二〇〇七	平成一九年	
一九九九	平成一一年	町制施行三〇周年	二〇〇八	平成二〇年	
二〇〇〇	平成一二年	町制施行三〇周年	二〇〇九	平成二二年	
二〇〇一	平成一三年	町制施行三〇周年			
二〇〇二	平成一四年	町制施行三〇周年			
二〇〇三	平成一五年	町制施行三〇周年			

